

2018年 Asia300 実力企業ランキングを発表

日本経済新聞社の英文媒体「Nikkei Asian Review」(<https://asia.nikkei.com>)は、今年で3回目となるAsia300 パワーパフォーマーランキングを発表しました。Asia300 は、日経が独自に選んだアジア 11 カ国・地域の主要企業群です。成長性、収益性、資本効率と財務健全性の4つの要素をもとに325社を分析し、ランキングを作成しました。

今年のランキング上位には、世間一般の知名度は高くないながら上記4つ基準において確かな業績を示したアジア企業が数多く入りました。

こうした隠れた優良企業の中には、世界を代表するスマートフォン向けカメラレンズのメーカーであり、本ランキングにおいて昨年から2年連続で首位となったラーガン・プレジジョン (Largan Precision、大立光) などが含まれます。ラーガン・プレジジョンは2007年のiPhone発売当初から全ての端末にカメラレンズを供給しており、そのサプライチェーンにおいて重要な役割を担ってきました。トップ10入りしたもう一つの台湾企業は世界最大の半導体メーカーである台湾積体電路製造 (TSMC) で第4位でした。

また、欧米企業に低価格のITサービスを提供するインド企業の存在も目立ちました。2位となったHCLテクノロジーズに続き、9位にタタコンサルタンシー、13位にインフォシスがランクインしました。クライアントとなる欧米企業にはウォルマートやゼネラル・エレクトリック、さらには米陸軍や空軍などが含まれます。

こうした「隠れた」優良企業だけではなく、アジアの旺盛な消費を背景として成長を続ける消費者指向の企業も存在感を見せました。中国のインターネットサービス大手の騰訊控股 (テンセント) が4位、そしてベトナム乳製品大手のベトナム・デイリー・プロダクツ (ビナミルク) は16位につけました。

今年のトップ30企業は中国・香港企業が9社、インド企業が7社、台湾企業が5社、韓国企業が3社、インドネシア企業とタイ企業が2社ずつ、マレーシアとベトナムから1社ずつとなりました。

今年のトップ 30 社

(カッコ内は昨年順位)

		企業名	国・地域	業種
1	(1)	大立光電(ラーガン・プレシジョン)	台湾	電子部品
2	(2)	HCL テクノロジーズ	インド	情報技術
3	(35)	ブミ・スルボン・ダマイ	インドネシア	不動産
4	(5)	台湾積体回路製造(TSMC)	台湾	半導体
4	(9)	騰訊控股 (テンセント)	中国	ネット
6	(12)	貴州茅台酒	中国	飲料
7	(56)	セルトリオン	韓国	医薬品
8	(6)	アリババ集団	中国	ネット
9	(4)	タタ・コンサルタンシーサービシズ	インド	情報技術
10	(10)	タイ空港会社(AOT)	タイ	空港
11	(25)	ハルタレガ	マレーシア	医療関連
12	(38)	広州汽車集団	中国	自動車
13	(15)	インフォシス	インド	情報技術
14	(3)	ジー・エンターテインメント・エン タープライゼズ	インド	エンターテインメ ント
15	(14)	可成科技(キャッチャー・テクノロ ジー)	台湾	金属部品
16	(7)	ベトナム・デイリー・プロダクツ (ビナミルク)	ベトナム	食品
17	(129)	安徽海螺水泥	中国	セメント
18	(13)	セントラル・パタナ	タイ	不動産
19	(103)	プキット・アサム	インドネシア	石炭
20	(17)	マルチ・スズキ	インド	自動車
21	(214)	長江実業地産	香港	不動産
22	(16)	ITC	インド	たばこ
23	(22)	中国海外発展	香港	不動産
24	(7)	儒鴻企業 (エクラ・テキスタイル)	台湾	繊維
25	(36)	研華 (アドバンテック)	台湾	工業用パソコン
26	(32)	百度 (バイドウ)	中国	ネット
27	(101)	SK ハイニックス	韓国	半導体
28	(21)	ネイバー	韓国	ネット
29	(24)	ダブール・インディア	インド	日用品
30	(50)	恒基兆業地産	香港	不動産

2018 Asia300 Power Performers Ranking に関する詳細記事:

<https://www.nikkei.com/paper/article/?b=20180713&ng=DGKKZO32924050S8A710C1FFE00>

[0](#)

今年の top100 社リスト:

<https://asia.nikkei.com/Asia300/The-top-100-Asia300-Power-Performers>

調査の概要

The Asia300 Power Performers Ranking は、Asia300 の 325 社を対象に実施。成長性 (2017 年度までの過去 5 年間の売上高と純利益の平均成長率)、収益性 (2016 年度の売上高純利益率)、資本効率 (同自己資本利益率=ROE)、財務健全性の (同自己資本比率) を独自にスコア化し、総合的な結果からランキングしています。QUICK-FactSet の提供するデータを使用しています。

Asia300 について

Asia300 は日本経済新聞社が独自に選んだアジアの主要企業群です。中国、香港、韓国、台湾と、シンガポール、タイ、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナムの ASEAN 主要 6 カ国、インドの計 11 カ国・地域の上場企業の中から、時価総額や成長性などを基準に 300 社以上を選出。2015 年から重点的に報道しています。2017 年 12 月からは、この Asia300 の考え方を生かした投資用指数「Nikkei Asia300 Investable Index」も算出しています。

Nikkei Asian Review について

Nikkei Asian Review はダイナミックに成長するアジア経済を、アジアから世界に発信するユニークな英文メディアです。アジア各国に張り巡らされた豊富な取材網を生かし、ビジネス、政治経済、マーケットなど幅広い分野のニュースを提供しています。ウェブサイト、モバイルやタブレットアプリ、プリント版でお読みいただくことができます。アジアにおける優れた報道を表彰するアジア出版協会賞 (The Society of Publishers in Asia's Awards) を 4 年連続で受賞するなど、Nikkei Asian Review の報道は海外でも高い評価を受けています。

日本経済新聞社について

日本経済新聞社は 1876 年以来、140 年にわたってビジネスパーソンに価値ある情報を伝えてきました。約 1300 人の記者が日々、ニュースを取材・執筆しています。主力媒体である『日本経済新聞』の発行部数は現在約 250 万部、2010 年 3 月に創刊した『日本経済新聞 電子版』の有料会員数は 60 万人を超え、有料・無料登録を合わせた会員数は 400 万人を上回っています。

お問い合わせ

日本経済新聞社 広報室
pr@nex.nikkei.co.jp